

[その他]

わが国の高齢者ケアにおけるストレングスモデルの活用 —国内文献の検討—

田場由紀¹⁾ 兼島利奈²⁾ 東嵩西寿枝³⁾

キーワード：高齢者、ストレングスモデル、文献検討

Key words: older adult, strengths models, literature review

I はじめに

急性期病院の高齢者看護については、「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」日本老年看護学会の立場表明2016（一般社団法人日本老年看護学会，2016）に代表されるように課題が山積している。高齢社会の到来は、社会保障における医療と介護の区別を明確にし、その効率化を図ることで役割分担による専門性の発展に寄与したが、延伸する老年期は、医療と介護の区別を再びあいまいなものにしている（広井，2000）。この世界的な情勢からWHOは国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health 以下ICF）を採択し新しい健康観、障害観を示すと同時に、ICFモデルを「医学モデル」と「社会モデル」の統合モデルと位置づけた（上田，2005）。

感染症などが主流の時代から、疾病構造の変化に適応し少しずつ改変されてきた医学モデルは、治療に介護や暮らしを取り込み、統合モデルであるICFモデルへ深化したといえる。その中で、治療にまつわる問題に着目するだけでなく、当事者のもつ力（ストレングス）に着目する必要性が示された。この流れを受け、急性期病院における高齢者看護に関する研究では、目標思考型アプローチなどストレングスの活用が試みられている（柴原，2023）。また、看護テキストにもストレングスの概念が紹介される（近藤，2023）など、基礎教育にも取り入れられている。しかし、急性期病院における高齢者看護の概念として、実践的な活用には至っていない。以上のことから、本報告では、我が国の高齢者ケアにおけるストレングスの活用について文献検討を行い、急性期病院の高齢者看護において高齢者のストレングスを活用するための方向性について考察する。

II 方法

1. 文献検索と文献の選定プロセス

国内文献について、医学中央雑誌 web 版新バージョン

を使用し、「高齢者」、「ストレングス」で検索し156件が該当した。次に、Cinii Researchにて、「高齢者」、「ストレングス」で検索した文献78件のうち、重複論文30件を除く48件を加え、204件の文献リストを作成した。いずれも検索期間は指定せず、検索結果の最新の文献は2022年12月時点までであった。このリストから、会議録や解説文献89件、器具名や雑誌名にストレングスがヒットした文献36件、高齢者ケアに該当しない文献34件、専門職や高齢者家族の強みに着目した文献3件、看護教育に関する文献2件を除外し、40件を検討対象文献とした。なお、今回は、ストレングスの活用の実際を捉えるために、査読の有無にはこだわらず対象文献とした。

2. 対象文献の概要

該当した文献で最も古いものは2002年であった。2002～2015年までに17件、2016～2022年までに23件と報告件数は増加傾向にあった。分野では、福祉分野が19件（2002年以降）、看護分野が12件（2014年以降に発表）、心理分野が1件（2015年）、リハビリテーションが6件（2016年以降）、医療分野が2件（2017年以降）であった。福祉分野で高齢者支援に取り入れられてから、看護、リハビリテーション、医療へと活用分野は拡大した（表1）。

3. 分析方法

高齢者ケアにおけるストレングスの活用方法を明らかにするために、マトリックス方式（Judith，2011）を用いて古いものから年代順に並べ、8つのトピック（題名、年代、分野、研究対象、目的、ストレングスの定義、研究の問い、研究方法にみるストレングスを捉える方法）による体系的な要約の形式で整理した。トピックについて、分野は緒言や背景、研究目的から研究者間で協議し特定した。研究の問いは、明確な記述がない文献は緒言や背景、研究目的、考察、結論を精読し推察、研究者間で協議し記述した。

1) 沖縄県立看護大学

2) 沖縄県立看護大学大学院博士前期課程

3) 沖縄県立看護大学大学院博士後期課程

表1 検討文献リスト

No.	タイトル	著者	雑誌	年代	分野
1	ケアハウス入居高齢者のストレングスに関する一考察	坂上真理	北星学園大学大学院社会福祉学研究所 北星学園大学大学院論集、5 45-53.	2002	福祉
2	エンパワメント実践から考察する高齢者パワーlessness及びストレングスの解明	林和歌子	城西国際大学紀要、10 (1), 131-140.	2002	福祉
3	高齢者の自立促進要因とQOL	金子勇	現代社会学研究 16 63-83.	2003	福祉
4	後期高齢者に見られる社会的衰弱徴候とソーシャル・ケースワーク—高齢者夫婦世帯の事例に関する考察	鶴岡イツ子	日本短期大学大憲論叢 43 (46), 1-19.	2005	福祉
5	ストレングス視点の活用と展開：地域における高齢者の介護予防と生活支援を通して	神山裕美	山梨県立大学人間福祉学部紀要 2 19-30.	2007	福祉
6	介護保険再編後のケアマネジメント—ストレングスモデルに対する検討—	山井理恵	高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の再編(報告書) 53-67.	2007	福祉
7	高齢者へのストレングス視点による面接と支援方法 健康生活支援ノートのいきがいプラン作成を通して	神山裕美	コミュニティソーシャルワーク3号 Page59-67.]	2009	福祉
8	要支援の高齢者がふれあいサロンに適應していくプロセスにおける支援者の役割	椎名知づる, 朴賢晶	介護福祉学, 16(2), 244-253.	2009	福祉
9	高齢者の終末期ケアにおける在宅移行期のケアマネジャーの役割と課題：退院時の事例から	中家洋子	四條畷学園短期大学紀要, 42, 27-35.	2009	福祉
10	認知症高齢者ケアにおける実存主義ソーシャルワーク再考 ある認知症高齢者の生活関与と観察を通して	大和田猛	青森県立保健大学雑誌, 11, 41-59.	2010	福祉
11	ケアマネジメントへの不満を訴える事例の事例検討からのケアマネジャーの役割再考	大湾明美, 佐久川政吉, 上原綾子	沖縄県立看護大学紀要, 11, 25-30.	2010	福祉
12	単身高齢者支援事例にみる参画型ソーシャルワークの可能性：解決志向アプローチの活用による協働と連携の促進	安達映子	社会福祉学, 54 (2), 83-93.	2013	福祉
13	関節リウマチをもつ高齢者のストレングスの構造「老年期のライフイベント」への適應にみられた「能力」から	佐久川政吉	老年看護学, 19(1), 62-71.	2014	看護
14	要介護高齢者からみたショートステイの意義と課題 ある利用者の手記(手紙)の質的分析	口村 淳	社会福祉学, 55(3), 94-105.	2014	福祉
15	ひとり暮らし要介護高齢者の日常生活におけるストレングス 社会サービスの活用状況に焦点をあてて	田場由紀, 大湾明美, 佐久川政吉, 他2名	沖縄県立看護大学紀要, 15, 53-66.	2014	看護
16	高齢者のストレングスが精神的健康と身体的健康に及ぼす影響	松橋舞, 山本眞利子	久留米大学心理学研究, 14, 67-72.	2015	心理
17	高齢者が生活上経験するスピリチュアルなテーマに関する研究 生きる意味に焦点をあてた質的研究	岡本宣雄	川崎医療福祉学会誌, 25(1), 37-47.	2015	福祉
18	グラウンド・ゴルフを通じて自信を回復し地域活動に参加できるようになった通所リハの事例	上田章弘	作業療法ジャーナル, 50(8), 878-882.	2016	リハ
19	介護予防活動支援事業に参加する高齢者のストレングス	嶋崎今日子, 中尾友香, 廣瀬絵理奈, 他3名	高知女子大学看護学会誌, 43(1), 161-168.	2017	看護
20	【超高齢化社会の精神科診療】高齢自殺ハイリスク者の自殺予防 実態調査と症例を通して	大高靖, 大久保善朗	臨床精神医学, 46(11), 1363-1368.	2017	医療
21	ストレングスの視点をういた認知症高齢者のアセスメント方法の改善 病棟看護師との協働による取り組みから	榮口咲, 大湾明美, 佐 久川政吉	沖縄県立看護大学紀要, 18, 11-21.	2017	看護

表1 検討文献リスト(つづき)

No.	タイトル	著者	雑誌	年代	分野
22	多職種事例検討会における支援困難事例の分析 学際的アセスメントとストレングスに配慮した課題解決策	室谷牧子, 佐瀬美恵子, 外堀佳代, 他1名	人間健康研究科論集, 1, 3-28.	2018	福祉
23	地域在住高齢者のストレングスを生かした自助グループ形成への支援	吉井智晴, 佐藤和子	東京医療学院大学紀要, 6, 90-101.	2018	リハ
24	転倒を繰り返しながらも訪問リハビリテーションにて強みを生かした関わりにより生活目標を達成出来た一症例	五十嵐満哉, 桶拓貴, 川上直子, 他2名	石川県作業療法学会雑誌, 26(1), 17-23.	2018	リハ
25	特別養護老人ホームの介護職による終末期高齢者を支える日常的介護実践 介護福祉士に対する量的調査の分析結果から	小松亜弥音, 岡田進一	社会福祉学, 58(4), 46-61.	2018	看護
26	高齢者複合施設における訪問リハビリテーションの関わりにより活動範囲が拡大し、社会参加及び役割の獲得を図れた一事例	五十嵐満哉, 川上直子, 諏訪勝志, 他1名	石川県作業療法学会雑誌, 27(1), 11-16.	2019	リハ
27	豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレングスの検討	大口洋子, 原等子, 小泉美佐子	日本ルーラルナーシング学会誌, 14, 1-13.	2019	看護
28	訪問リハビリテーションにより活動と参加が拡大し、その要因を検討した症例	有竹愛理	九州理学療法士学会大会誌, 25.	2019	リハ
29	持続可能なコミュニティ形成の要件に関する考察-地方移住者の街の実態調査分析を通して-	濱崎 裕子	日本の地域福祉, 32, 37-49.	2019	福祉
30	過疎地域における社会的居場所の円滑な運営方法の検討 地域包括支援センター職員へのインタビュー調査から	齋藤建児	高齢者のケアと行動科学, 25, 56-66.	2020	福祉
31	前頭側頭型認知症(FTD)患者の“食”を取り戻す取り組み 残された時間を有意義に過ごすための介入	秋山千広, 野瀬和美, 山田由佳, 他3名	日本認知症ケア学会誌, 19(2), 460-466.	2020	医療
32	短期集中予防型サービスで本人のストレングスに着目し関わった事例	月成純	山口作業療法, 13(1), 58-60.	2021	リハ
33	大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレングスの特徴 入院から退院後の在宅生活を中心に	畑香理	福岡県立大学人間社会学部紀要, 30(1), 35-50.	2021	福祉
34	退院支援看護師が認識する自宅へ退院した高齢者のストレングス	小藪智子, 原瀬愛理, 井上かおり, 他5名	岡山県立大学保健福祉学部紀要, 27, 41-48.	2021	看護
35	長野県の食生活改善推進員の活動上の強みと課題 活動における希望や思いの分析から	御子柴裕子, 高増雅子	日本ルーラルナーシング学会誌, 16, 19-31.	2021	看護
36	高齢者がとらえる小地域の環境のストレングス	安仁屋優子, 佐久川政吉, 下地幸子	老年看護学, 25(2), 115-122.	2021	看護
37	ケアサイクルにある高齢者のストレングス尺度の妥当性と信頼性の検討	小藪智子, 松田美鈴, 上野瑞子, 他4名	日本保健科学学会誌, 25(3), 127-135.	2022	看護
38	BPSDが顕著な認知症患者のストレングスに着目した取り組み	栗山めぐみ, 原佳奈子	日本精神科看護学術集会誌, 65(1), 350-351.	2022	看護
39	A離島における高齢者のもつストレングス 初めての訪問看護事業所開所時の座談会での高齢者の発言の分析から	佐久川政吉, 津波勝代, 折戸雅恵	日本ルーラルナーシング学会誌, 17, 11-18.	2022	看護
40	小地域における高齢者の社会参加活動への参加促進要因に関する研究 松江市淞北台地区のインフォーマルなグループ活動の世話役へのインタビュー調査を通して	蘇曉娜	日本の地域福祉, 35, 25-37.	2022	福祉

Ⅲ 結果

1. 研究対象

研究並びに報告の対象には、65歳以上の地域在住高齢者（無作為抽出、目的的サンプリング、高齢者白書データ、ボランティア活動実施者等）9件（No. 2、3、16、23、29、35、36、39、40）、生きがいデイサービスなど介護予防活動の参加者5件（No. 5、7、8、19、27）、ケアハウス利用者など要介護認定は受けていないが要介護状態にある高齢者3件（No. 1、4、12）、要介護認定を受け介護サービス（施設サービス、居宅サービス）を利用している高齢者8件（No. 10、13、14、15、17、26、32、37）、骨折や認知症などにより治療病棟への入院経験を有する高齢者8件（No. 18、20、24、28、31、33、34、38）であった。また、高齢者支援を担う地域包括支援センター職員や病院看護師、介護士などの専門職を対象とした報告7件（No. 6、9、11、21、22、25、30）であった。

2. 研究の問いと高齢者のストレングス

高齢者のストレングスについて研究の問いとの関係で整理した。高齢者が健康を維持するための要件としてのストレングスを見出そうとする報告No. 3、16（金子，2003；松橋ら，2015）、入院高齢者が自宅へ退院するための要件としてストレングスを見出そうとする報告No. 34（小藪ら，2021）があった。また、健康を維持する要件であるストレングスを引き出すことを目的とした報告No. 5、7、19（神山，2007；神山，2009；嶋崎ら，2017）があった。これらは、ストレングスを老年期における健康や自立生活に必要な要件と位置づけていた。

高齢者のストレングスの特性について、疾患や要介護状態という老いの体験に焦点をあてた報告No. 1、10、13、15、14、17、20、33（坂上，2002；大和田，2010；佐久川，2014；田場ら，2014；口村，2015；岡本，2015；大高ら，2017；畑，2021）、過疎地など特殊な環境での生活に焦点をあてた報告（大口ら，2019；佐久川ら，2022）、社会活動に焦点をあてた報告No. 29、35、36、40（濱崎，2019；御子柴ら，2021；安仁屋ら，2021；蘇，2022）があった。

高齢者のストレングスと援助職者との関係について、介護保険制度など高齢者関連制度の変遷や高齢者の生活に関する調査の結果から高齢者支援の課題に言及した報告では、ストレングスモデルによる課題解決の可能性を指摘していた。また、援助職者が高齢者のストレングスに着目する必要性を指摘している報告No. 9、21、22（中家，2009；大湾ら，2010；榮口ら，2017；室谷ら，2018）があった。

高齢者のストレングスを援助職者が引き出し、課題解決に活かすものとして位置づけている報告は、個別支援の経過を整理、検討したものNo. 4、8、12、18、24、26、28、31、32、33、38（鶴岡，2005；椎名ら，2009；安達，2013；上田，2016；五十嵐ら，2018；五十嵐ら，2019；

有竹，2019；秋山ら，2020；月成，2021；畑，2021；栗山，2022）があった。これらは、援助職者の役割や援助による高齢者の可能性を記述していた。また、高齢者個人ではなく、高齢者集団のストレングスを課題解決に活かす支援プロセスに着目した報告No. 23、30（吉井ら，2018；齋藤，2020）もあった。このように、事例に対し援助職者がストレングスをどのように捉え活用したのか、その成果を記述していた。ストレングスとして着目したものの援助に活かさない実践も紹介されており、あくまでも高齢者のエンパワメントにつながった実践を扱っていた。援助職者が高齢者との関わりで捉えたストレングスから、その特性を見出そうとする報告No. 25、37（小松ら，2018；小藪ら，2022）は、そのストレングスを捉える視点を専門性と位置づけ可視化を試みていた。

3. 高齢者のストレングスを捉える方法

研究方法から検討した高齢者のストレングスを捉える方法は、当事者へのインタビュー、当事者の参与観察、援助職者へのインタビュー、アセスメントシートの使用、尺度を用いた調査があった。

当事者へのインタビューについて、当事者から好みや願望の聞き取りを取り入れたNo. 31、35（月成，2021；御子柴ら，2021）、ライフイベントにおける困難とその困難への対処についての聞き取りを取り入れたNo. 1、13（坂上，2002；佐久川，2014）など、ストレングスを直接聞き取る方法、医療や介護サービスの利用に至った経緯や当時の思いなどの聞き取りを取り入れたNo. 14、15、17、20（口村，2014；田場ら，2014；岡本，2015；大高ら，2017）など、ストレングスが発揮されると想定される困難や挑戦の語りを促す方法があった。また、入院や傷病時などの体験について、その不安や困難の語りを促すNo. 33（畑，2021）では、語りの内容からストレングスを導く方法を取り入れていた。そして、研究者による参与観察でストレングスを捉える試みNo. 1、10（坂上，2002；大和田，2010）は、要介護状態にある高齢者に対し実施されており、特に自らについての語りが不十分になりがちな認知症高齢者が含まれていた。リハビリテーションの場では、援助職者による生活行為アセスメントシートの活用によりストレングスを捉えたNo. 18、24、26（上田，2016；五十嵐ら，2018；五十嵐ら，2019）、介護予防の場では当事者と援助職者の協働で作成するノートを用いたNo. 5、7（神山，2007；神山，2009）があった。さらに、援助職者へのインタビューでは、かかわりによって引き出されるストレングスに焦点をあてたNo. 23、30（吉井ら，2018；齋藤，2020）、ストレングスを引き出すために援助職者が意図していることに焦点をあてたNo. 25（小松ら，2018）では、援助職者の思考が明らかにされていた。

以上、3つのトピックについて表2に整理した。

表2 わが国の高齢者支援におけるストレングスの活用

No.	対象（データ）	定義の有無	研究の問い	研究方法にみるストレングスを捉える方法
1	ケアハウスに居住している高齢者	あり	高齢者が環境変化や心身の変化に直面しながらも生活の中でどのようなストレングスを用いているか	研究者が研究対象となる高齢者へのインタビューを実施し、その内容から研究者がストレングスを捉える
2	わが国の高齢者（高齢者白書のデータ）	あり	わが国の高齢者のストレングスの現状とはどのようなものかわが国の高齢者がパワーlessnessに陥る可能性とはどのようなものか	研究者が高齢者白書のデータを用いて、わが国の高齢者のストレングスを考察する
3	在宅で生活する65歳以上の高齢者	あり	高齢者の自立の具体的で測定可能な条件とは何か 高齢者の自立を促進する支援策とは何か	高齢者の自立状況とQOL指標を調査し、QOL指標の高さをストレングスと位置づける
4	西南日本型である高齢者夫婦世帯の事例	なし	要介護者をつくらないための「危機介入」ではなく「予防介入」としての高齢者への対応方法とはどのように編み出すことができるのか	ソーシャルワーカーの支援を受けている夫婦世帯の1事例についてかわりのプロセスを整理し、その内容から研究者が高齢者のストレングスを捉える
5	生きがいデイサービスの利用者	なし	開発した健康・生活支援ノートは、高齢者のストレングスを引き出す効果があるか	ノートを用いて高齢者に得意なことや強みを聞き取る。高齢者自身が認識しているストレングスを研究者が聴取する
6	地域包括支援センター	あり	ストレングスモデルがわが国のケアマネジメントや介護予防ケアマネジメントに及ぼした影響とはどのようなものか	高齢者支援を担うケアマネージャーに対し、高齢者のストレングスをどのように見出しているのかをインタビューしており、支援者が高齢者のストレングスを捉えている
7	A氏いきがい活動支援所事業（いきがいデイサービス）の利用者	なし	個人別「生きがいプラン」の作成は、高齢者と環境のストレングスを明らかにするか 個人別「生きがいプラン」の作成は、ストレングスを引き出す支援方法となり得るか	高齢者に好きなこと、得意なこと、生きがいなど、高齢者自身が強みと認識していることを研究者が聴取する
8	要支援高齢者とふれあいサロンボランティアの学生	なし	要支援の高齢者がデイサービスに適應していくプロセスにおける支援者の役割とはどのようなものか	高齢者とボランティア学生との会話の記録、それぞれへのインタビューから、研究者が第三者として高齢者のストレングスを見出す
9	退院支援に関わったケアマネージャー	なし	終末期高齢者の在宅移行期におけるケアマネージャーの役割とは何か	退院支援を担当したケアマネージャー2名に対し、それぞれの支援プロセスを聞き取り、ケアマネージャーが高齢者のストレングスを捉えていたかどうかを研究者が検討する
10	施設入所に至る直前の認知症高齢者1名	なし	認知症高齢者を支援するうえで求められる本人の体験や愛いを理解するためにはどのようなアプローチが可能か	高齢者に自らの体験を記録してもらい、研究者がその記録からストレングス視点で行為を捉える
11	不満を訴える事例を担当するケアマネージャー	なし	ケアマネジメントに苦情を訴える事例とケアマネージャーとの援助関係はどのように捉えられるか	ケアマネージャーの支援プロセスについての聞き取りから、研究者が、ケアマネージャーが高齢者をストレングスの視点でとらえていたかどうかを検討する
12	地域包括支援センターにおいて把握された「単身高齢者支援ケース」	なし	単身高齢者に対し、ソリューション・フォーカスト・アプローチ（SFA）を基盤としたソーシャルワークプロセス（参画型ソーシャルワーク）は、どのような効果があるか	単身高齢者を選定し、ストレングスを活かす支援モデル、ソリューション・フォーカスト・アプローチ（SFA）を適應して実践しプロセスを整理する研究方法で、支援を担うケアマネージャーが支援対象となる高齢者のストレングスを捉える
13	関節リウマチをもつ高齢者	あり	RA高齢者の生活と人生の質から導かれるストレングスはどのような構造として捉えられるのか	研究者がリウマチを抱える高齢者に対し老年期のライフイベントの語りを促すインタビューを行い、イベントへの対処行動の語りから、研究者がリウマチを抱える高齢者のストレングスを捉える
14	介護サービスのうちショートステイのみを利用している要介護高齢者1名	なし	当事者の視点からみたショートステイサービスとはどのようなものか リロケーションダメージの可能性はあるかサービスに対する評価（満足度）はどのようなものか職員の支援に対する利用者の内面の動きはどのようなものか	ショートステイ利用のたびにお礼状として手記を施設に郵送しているA氏を事例とし、郵送された手記の内容から、研究者がショートステイを利用する高齢者のストレングスを捉える

表2 わが国の高齢者支援におけるストレングスの活用(つづき①)

No.	対象(データ)	定義の有無	研究の問い	研究方法にみるストレングスを捉える方法
15	要介護認定を受けている一人暮らし高齢者	なし	自ら介護の問題に対処する一人暮らしの要介護高齢者が発揮しているストレングスとはどのようなものか	研究者が一人暮らしをしている要介護高齢者に対し、サービス利用に至る経緯についての語りを促すインタビューを行い、要介護状態への対処行動の語りから、研究者が高齢者のストレングスを捉える
16	講座やボランティアに参加する65歳以上の高齢者	あり	高齢者の精神および身体の健康と個々のストレングスはどのように影響し合うのか	研究者が作成したストレングス調査用紙を用いて、自記式留め置き調査を行い、調査項目へ的高齢者の回答からストレングスを捉える
17	老人デイサービス利用者、介護付き有料老人ホーム入居者	なし	介護の支援が必要であり福祉サービスを利用して生活を営む高齢者が、その生活の中でどのようなスピリチュアルな課題に直面し、あるいは自らのスピリチュアリティによってその生がいかに強められているのか	高齢者のスピリチュアリティをストレングスと位置づけ、米国で考案されたPILテスト(生きる意味、目的意識を測定する心理検査)と三沢らが開発した高齢者のスピリチュアリティ評定尺度調査票を参考にインタビューガイドを作成し、対象者へのインタビューを実施することで、高齢者の語りからストレングスを聴取する
18	入院し、寝たきりにより廃用性筋力低下をきたし活動性が低下した事例	なし	廃用性筋力低下をきたし活動性が低下した事例は、介入により参加が可能になるまで回復が可能か 廃用性筋力低下から再び参加が可能になるまで回復した事例に対する介入は、何が効果的であったか	報告者が、リハビリ支援において、生活行為向上マネージメントシートを活用し、アセスメントすることで、支援者が高齢者の現状の能力をストレングスとして捉える
19	介護予防支援事業に2年以上継続して参加している後期高齢者	あり	介護予防活動支援事業に参加する高齢者はもともと持っているストレングスを伸ばすことができるか	研究者が高齢者への半構造化したインタビューを実施し、高齢者の語りから研究者が高齢者のストレングスを捉える
20	病院に入院となった自殺未遂者の中の高齢者	なし	高齢の自殺ハイリスク者の対応法の在り方とはどのようなものか 自殺未遂高齢者のライフステージに着目した支援の効果とはどのようなものか	自殺企図と判断され救命された高齢者へライフステージの強みに着目した支援を行う。支援者が、高齢者のライフステージを見極めその強みを推察する
21	認知症治療病棟に勤務し入院中の高齢者を支援する看護師と研究者	あり	入院施設において看護師が高齢者のストレングスをアセスメントするためには、どのような改善可能性があるか	看護師のアセスメント結果について、研究者と看護師との協働によりストレングスの視点で高齢者のアセスメントを捉えなおす
22	A市が開催した多職種事例検討会の記録	なし	本人の自立支援と尊厳保持を中心に据えたケアマネジメントの展開とは何か ①介護支援専門員が困難と感じる事例の特徴はなにか ②地域包括ケアシステム構成要素からみた多職種によるアセスメントの実際はどのようなものか ③抽出された課題の傾向と課題解決策とは何か	多職種による事例検討会の議事録をデータとしており、研究者が議事録から支援者が捉えた高齢者のストレングスといえるものを取り出す
23	A大学の地域交流室を活用し自助グループでの活動を実施している住民	あり	当事者たちのどのようなストレングスが、自助グループ形成に役立つのか、更に専門職はどのタイミングでどのような支援をすればよいか	大学が介入し自助的な活動を支援した4つのグループについて、支援の経過を整理し、徳永らのストレングスを活かした具体的な支援の5つのカテゴリーとその順序を用いて研究者が自助グループのストレングスを捉える
24	複数回の転倒歴を有し、転倒骨折後自宅退院した要介護高齢者	なし	ストレングスリハビリテーションアプローチは、どのように効果を発揮しているか	ストレングスリハビリアプローチを用いた支援経過を整理し、支援プロセスでは、支援者が高齢者のストレングスを捉える
25	特別養護老人ホームに入所している高齢者の介護を担う介護福祉士	あり	特養の看取りの質向上に資する介護職の看取りの実践内容とはどのようなものか。介護職の看取りの実践に見出される介護の専門性とは何か	特養での看取りを実践する際、介護者が捉える高齢者のストレングスに焦点を当てる
26	高齢者複合施設に入居している閉じこもり高齢者1事例	なし	ストレングスリハビリテーションアプローチは、どのように効果を発揮しているか	ストレングスリハビリアプローチを用いた支援経過を整理し、支援プロセスでは、支援者が高齢者のストレングスを捉える

表2 わが国の高齢者支援におけるストレングスの活用(つづき②)

No.	対象(データ)	定義の有無	研究の問い	研究方法にみるストレングスを捉える方法
27	豪雪地帯であるB町のC地区公民館のいきいきサロン事業に参加している高齢者	あり	豪雪という自然環境の中で暮らす高齢者のストレングスは何によって構成されているか	研究者が高齢者への半構造化した質問紙による面接調査を実施し、語りの中からラップのストレングスの構成要素を参考に、研究者がストレングスと解釈できる語りを取り出す
28	骨折治療後、自宅退院し訪問リハビリサービスを利用した高齢者	なし	ストレングスリハビリテーションアプローチは、どのように効果を発揮しているか	支援者が高齢者とのかかわりによって見いだしたICFモデルにおける「できること」をストレングスと捉える
29	福岡県のM社において、区会の会報で参加を募り集まった住民有志	なし	M社のコミュニティが持続可能であるために何が必要か	住民主体の活動に焦点をあてて、その活動の運営・維持の要となっていることを研究者がストレングスと捉える
30	過疎地域における市街地と農村部の地域包括支援センター職員	なし	地域コミュニティがぜい弱化する中で、仕掛けやリーダーの資質が求められる高齢者の社会参加促す居場所づくりはどうあるべきか	地域包括支援センター職員に対し、研究者が半構造化面接を実施し、社会的居場所の運営に関する成果と課題の語りを促し、成果や運営を円滑にする要素を研究者がストレングスと捉える
31	病院に入院したFTD患者	なし	事例の課題をストレングスとして捉えなおすことの介入の効果とは何か	事例の課題に対し、支援者が事例のストレングスを捉え支援に活用する
32	事例A施設におけるC型サービスの利用者で介入により改善の見られた事例	なし	事例の改善につながった介入とは何か	支援者がコーチングの基本としてのストレングスを支援に活用することで、高齢者のストレングスを支援者が捉えて引き出す。
33	大腿骨警部骨折による入院を経験した高齢者	なし	大腿骨骨折後のQOL向上のための継続支援とは何か大腿骨骨折前後の暮らしを継続支援するためのソーシャルワーク上の視点とは何か、支援方法とはどのようなものか	研究者が高齢者へのインタビューを実施し、受傷から入院を経て在宅復帰に至るまでの時系列の語りを促し、語りの中から研究者が捉えたストレングスを導く
34	看護師が退院支援を行い自宅へ退院した高齢者	あり	高齢者のストレングスを看護師が見出すことで過度な介入を減らし業務を効率化するために、自宅退院を果たした高齢者のストレングスを看護師はどのように捉えたのか自宅退院した高齢者のストレングスとは何か	研究者が退院支援看護師に対する面接調査を行い、自宅へ退院した高齢者に共通するストレングスは何かについての語りから、看護師が捉えた高齢者のストレングスを導く
35	長野県の食生活改善推進員(平均年齢70代、30~50代含む)	なし	主体的に活動に取りくむボランティアとしての食生活改善推進員の活動に対する希望や思いはどのようなものか 食生活改善推進員の活動はどうあるべきか	研究者は無記名の自記式質問紙調査を配布、郵送法で回収し、希望や思いについての自由記載から、研究者が強みと捉えた語りを取り出す
36	A氏B区の住民のアンケート回答者のうち、60歳以上を選定	あり	高齢者が地域を支える担い手として経験や知恵を発揮するために、どのように地域のストレングスを捉えているか	研究者が地域の高齢者に対し自記式のアンケート用紙を配布、地域の強みと課題の自由記述の内容のうち強みの記述を取り出す
37	在宅介護サービスを利用する要支援・要介護認定高齢者	あり	ストレングスは測定可能か ケアサイクルにある要介護高齢者のストレングスは可視化可能か	尺度開発のための無記名の自記式質問紙調査票を用いて調査し、対象者の記述からストレングスを捉える
38	認知症のため施設入所したがBPSDのため対応困難となり入院となった1事例	あり	ストレングスに着目した支援は本事例のBPSDをどのように改善したのか	研究者が、ケアを実施した支援者から支援内容と高齢者の反応を聞き取り、支援者が高齢者のストレングスを捉える
39	地域在住高齢者	あり	地域の高齢者と病院看護職者の座談会から見出された地域高齢者のストレングスとは何か	地域高齢者と訪問看護サービス提供者との座談会の報告書から、高齢者が語った地域のストレングスと捉えられる内容を取り出す
40	インフォーマルなグループ活動において世話役であり、主体的に活動している高齢者9名	あり	高齢者の居住地域である小地域において、いかに社会参加活動を活性化し、高齢者の参加を促進することができるか インフォーマルなグループ活動はいかにして活発で継続が可能でありうるか	研究者が対象となる高齢者にインタビューを行い、語りの内容からグループ活動に見出されるストレングスを記述する。

IV 考察

1. 急性期病院の高齢者看護において高齢者のストレングスを活用するための方向性

研究の対象ならびに研究の問いに見出される高齢者のストレングスについて、人生におけるさまざまな体験がストレングスを強化、発展、創造する可能性を示唆していた。つまり、ストレングスは暮らしの中での困難や挑戦を通して適応するプロセスで顕在化するものであり、高齢者ほどストレングスを発揮してきた経験があるといえる。同時に、経験は目に見えにくいことから、看護職者は、ストレングスをアセスメントする技術を修得、向上させる必要がある。

また、高齢者ケアにおけるストレングスの活用では、援助職者が困難を抱える実践や目標を達成できなかった実践を振り返り検討することで、問題解決アプローチの限界を示すことにより、ストレングスアプローチの必要性を示唆していた。援助職者は、高齢者のストレングスを単に長所として捉えるのではなく、支援に活用し効果を発揮してはじめて、ストレングスと位置づけていた。そして、援助関係の相互作用によりストレングスが顕在化するものであることを示していた。高齢者のストレングスを専門職が捉える方法は、対象の状況やストレングスを見出す目的に応じて選択されており、ストレングスとは、ある状況によって表出される固有のものであること、いずれの場合もストレングスを捉えることは専門性であることを示していた。このように、ストレングスをアセスメントすることは、専門技術であり、急性期病院においてストレングスを活用するためには、看護のアセスメント技術としてストレングスを捉える視点を確立する必要がある。

急性期病院に入院していた認知症高齢者の看護ケアの受け止めを明らかにした報告（森本ら，2023）では、看護師を馴染みと感ずることで安心すること、一方で看護師の忙しさに気遣いかわりをあきらめること、自分の状況がわからず看護師に恐怖を感じる事が明らかにされている。このことは、認知症を抱える中でも看護師という新たな人間関係に対し、相互作用を持ちうることを示唆している。治療の場の看護では、看護診断の活用により、問題への着目とリスク管理に傾倒しやすいという指摘（井上ら，2019）、目標志向型のアプローチが定着しにくい（柴原ら，2023）という指摘がある。一方で、看護師は、心身機能が低下していることに対し、問題へ着目しているばかりではなく、当事者の意向や意思の汲み取るスキルを明らかにしている報告もある（橋本ら，2021；鳥田ら，2007）。つまり、急性期病院において、看護師が高齢者のストレングスを活用するためには、看護師が高齢者に対し相互作用を持ちうることを信頼し援助関係の形成に働きかけることによって、ストレングスの顕在化を促進する可能性があると考えられる。

以上のことから、急性期病院の高齢者看護において高

齢者のストレングスを活用するためには、ストレングスのアセスメント技術を修得・向上する必要があること、目に見えにくいストレングスの顕在化を促進するためには、看護師は日ごろ高齢者に対し発揮している当事者の意向や意思を汲み取ろうとするスキルを活かし、援助関係の形成プロセスにストレングスが見出せることを意識する必要性が示唆された。

2. 本研究の限界と今後の課題

本研究は、ストレングスの活用の実際を捉えるために、査読の有無にはこだわらず対象文献としており、多様な高齢者ケアの場における援助が対象となった。そのため、分析結果は、ケアの場ごとの相互作用の特徴によるストレングスの性質は検討されていないことが限界である。今後は、ケアの場ごとの援助職者の特性と高齢者との相互作用がストレングスにどう影響するのか、実践的な研究を蓄積することが課題である。

利益相反

本研究について報告すべきCOIはない。

引用文献

- 秋山千広，野瀬和美，山田由佳他．（2020）．前頭側頭型認知症（FTD）患者の“食”を取り戻す取り組み 残された時間を有意義に過ごすための介入．日本認知症ケア学会誌，19（2），460-466．
- 安達映子．（2013）．単身高齢者支援事例にみる参画型ソーシャルワークの可能性：解決志向アプローチの活用による協働と連携の促進．社会福祉学，54（2），83-93．
- 安仁屋優子，佐久川政吉，下地 幸子．（2021）．高齢者がとらえる小地域の環境のストレングス．老年看護学，25（2），115-122．
- 有竹愛理．（2019）．訪問リハビリテーションにより活動と参加が拡大し、その要因を検討した症例．九州理学療法士学会大会誌，25．
- 柴口咲，大湾明美，佐久川政吉．（2017）．ストレングスの視点をういた認知症高齢者のアセスメント方法の改善 病棟看護師との協働による取り組みから．沖縄県立看護大学紀要，18，11-21．
- 濱崎裕子．（2019）．持続可能なコミュニティ形成の要件に関する考察—地方移住者の街の実態調査分析を通して—．日本の地域福祉．32，37-49．
- 橋本昌子，小山尚美，渡邊裕子．（2021）．寝たきりで言語的コミュニケーションが困難な高齢者の療養生活に関する意向の汲み取り．老年看護学，26（1），96-104．
- 畑香理．（2021）．大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレングスの特徴 入院から退院後の在宅生活を中心に．福岡県立大学人間社会学

- 部紀要, 30(1) 35-50.
- 林和歌子. (2002). エンパワメント実践から考察する高齢者パワーlessness及びストレスの解明. 城西国際大学紀要, 10(1), 131-140.
- 広井良典. (2000). ケア学—越境するケアへ. 医学書院, pp34-44.
- 五十嵐満哉, 川上直子, 諏訪勝志他. (2019). 高齢者複合施設における訪問リハビリテーションの関わりにより活動範囲が拡大し、社会参加及び役割の獲得を図れた一事例. 石川県作業療法学術雑誌, 27(1), 11-16.
- 五十嵐満哉, 桶拓貴, 川上直子他. (2018). 転倒を繰り返しながらも訪問リハビリテーションにて強みを生かした関わりにより生活目標を達成出来た一症例. 石川県作業療法学術雑誌, 26(1), 17-23.
- 井上聡子, 佐藤和子. (2019). 患者の回復プロセスにあった看護診断の在り方; ウェルネ型看護診断へのスイッチオン. Wellness journal, 15(1), 9-14.
- 一般社団法人日本老年看護学会. (2016). 急性期病院において認知症高齢者を擁護する日本老年看護学会の立場表明. <https://www.google.co.jp/url> (2023年11月1日現在)
- Judith Varrard. (2011/2012). 阿部陽子(訳), 看護研究のための文献レビュー マトリックス方式. 医学書院.
- 神山裕美. (2009). 高齢者へのストレス視点による面接と支援方法 健康生活支援ノートのいきがいプラン作成を通して. コミュニティソーシャルワーク, 3, 59-67.
- 神山裕美. (2007). ストレス視点の活用と展開 : 地域における高齢者の介護予防と生活支援を通して. 山梨県立大学人間福祉学部紀要, 2, 19-30.
- 金子勇. (2003). 高齢者の自立促進要因とQOL. 現代社会学研究, 16, 63-83.
- 小松亜弥音, 岡田進一. (2018). 特別養護老人ホームの介護職による終末期高齢者を支える日常的介護実践 介護福祉士に対する量的調査の分析結果から. 社会福祉学 58(4), 46-61.
- 近藤絵美. (2023). 第Ⅲ章老年看護に活用できる理論・理念 8 ストレス. 正木治恵, 真田弘美(編). 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは. 改訂第4版. 133-136, 南江堂.
- 小薮智子, 原瀬愛理, 井上かおり他. (2021). 退院支援 看護師が認識する自宅へ退院した高齢者のストレス. 岡山県立大学保健福祉学部紀要, 27, 41-48.
- 小薮智子, 松田美鈴, 上野瑞子他. (2022). ケアサイクルにある高齢者のストレス尺度の妥当性と信頼性の検討. 日本保健科学学会誌, 25(3), 127-135.
- 口村淳. (2014). 要介護高齢者からみたショートステイの意義と課題 ある利用者の手記(手紙)の質的分析. 社会福祉学, 55(3), 94-105.
- 栗山めぐみ, 原佳奈子. (2022). 日本精神科看護学術集会誌, 65(1), 350-351.
- 松橋舞, 山本真利子. (2015). 高齢者のストレスが精神的健康と身体的健康に及ぼす影響. 久留米大学心理学研究, 14, 67-72.
- 御子柴裕子, 高増雅子. (2021). 長野県の食生活改善推進員の活動上の強みと課題 活動における希望や思いの分析から. 日本ルーラルナーシング学会誌, 16, 19-31.
- 室谷牧子, 佐瀬美恵子, 外堀佳代他. (2018). 多職種事例検討会における支援困難事例の分析 学際的アセスメントとストレスに配慮した課題解決策. 人間健康研究科論集, 1, 3-28.
- 森本恵り子, 平田弘美. (2023). 急性期病棟に入院していた認知障害高齢者の看護師・看護ケアの受け止め方. 老年看護学, 27(2), 67-76.
- 中家洋子. (2009). 高齢者の終末期ケアにおける在宅移行期のケアマネジャーの役割と課題 : 退院時の事例から. 四條畷学園短期大学紀要, 42, 27-35.
- 岡本宣雄. (2015). 高齢者が生活上経験するスピリチュアルなテーマに関する研究 生きる意味に焦点をあてた質的研究. 川崎医療福祉学会誌, 25(1), 37-47.
- 大口洋子, 原等子, 小泉美佐子. (2019). 豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスの検討. 日本ルーラルナーシング学会誌, 14, 1-13.
- 大高靖史, 大久保善朗. (2017). 高齢自殺ハイリスク者の自殺予防 実態調査と症例を通して. 臨床精神医学, 46(11), 1363-1368.
- 大湾明美, 佐久川政吉, 上原綾子. (2010). ケアマネジメントへの不満を訴える事例の事例検討からのケアマネジャーの役割再考. 沖縄県立看護大学紀要, 11, 25-30.
- 大和田猛. (2010). 認知症高齢者ケアにおける実存主義 ソーシャルワーク再考 ある認知症高齢者の生活関与観察を通して. 青森県立保健大学雑誌, 11, 41-59.
- 齋藤建児. (2020). 過疎地域における社会的居場所の円滑な運営方法の検討 地域包括支援センター職員へのインタビュー調査から. 高齢者のケアと行動科学, 25, 56-66.
- 坂上真理. (2002). ケアハウス入居高齢者のストレスに関する一考察. 北星学園大学大学院社会福祉学研究科北星学園大学大学院論集, 5, 45-53.
- 佐久川政吉. (2014). 関節リウマチをもつ高齢者のストレスの構造 「老年期のライフイベント」への適応にみられた「能力」から. 老年看護学, 19(1), 62-71.

- 佐久川政吉, 津波勝代, 折戸雅恵. (2022). A 離島における高齢者のもつストレングス 初めての訪問看護事業所開所時の座談会での高齢者の発言の分析から. 日本ルーラルナーシング学会誌, 17, 11-18.
- 柴原加奈, 小松美砂. (2023). 一般病院の看護師がとらえる高齢や看護において目標志向型思考を用いる意義と課題. 老年看護学, 27(2), 77-85.
- 嶋崎今日子, 中尾友香, 廣瀬絵理奈. (2017). 介護予防活動支援事業に参加する高齢者のストレングス. 高知女子大学看護学会誌, 43(1), 161-168.
- 椎名知づる. (2009). 要支援の高齢者がふれあいサロンに適應していくプロセスにおける支援者の役割. 介護福祉学, 16(2), 244-253.
- 蘇曉娜. (2022). 小地域における高齢者の社会参加活動への参加促進要因に関する研究 松江市湊北台地区のインフォーマルなグループ活動の世話役へのインタビュー調査を通して. 日本の地域福祉, 35, 25-37.
- 杉山章子. (2002). 医療における実践モデル考—「医学モデル」から「生活モデル」へ—. 日本福祉大学社会福祉論集, 107, 61-71.
- 田場由紀, 大湾明美, 佐久川政吉他. (2014). ひとり暮らし要介護高齢者の日常生活におけるストレングス社会サービスの活用状況に焦点をあてて. 沖縄県立看護大学紀要, 15, 53-66.
- 鳥田美貴代, 正木治恵. (2007). 看護師がとらえにくいと感じる高齢者の主体性に関する研究. 老年看護学, 11(2), 112-119.
- 月成純. (2021). 短期集中予防型サービスで本人のストレングスに着目し関わった事例. 山口作業療法, 13(1), 58-60.
- 鶴岡イツ子. (2005). 後期高齢者に見られる社会的衰弱徴候とソーシャル・ケースワーク—高齢者夫婦世帯の事例に関する考察. 日本短期大学大憲論叢, 43(46), 1-19.
- 上田章弘. (2016). 疾患別実践例 廃用症候群 グラウンド・ゴルフを通じて自信を回復し地域活動に参加できるようになった通所リハの事例. 作業療法ジャーナル, 50(8), 878-882.
- 上田敏. (2005). ICF (国際生活機能分類) の理解と活用—一人が「生きること」「生きることの困難 (障害) をどうとらえるか. 萌文社, pp5-37.
- 山井理恵. (2007). 介護保険再編後のケアマネジメント—ストレングスモデルに対する検討—. 高齢者ケア政策の展開とケアリング関係の再編報告書, 53-67.
- 吉井智晴, 佐藤和子. (2018). 地域在住高齢者のストレングスを生かした自助グループ形成への支援. 東京医療学院大学紀要, 6, 90-101.